

柳巷婦女傳

目錄

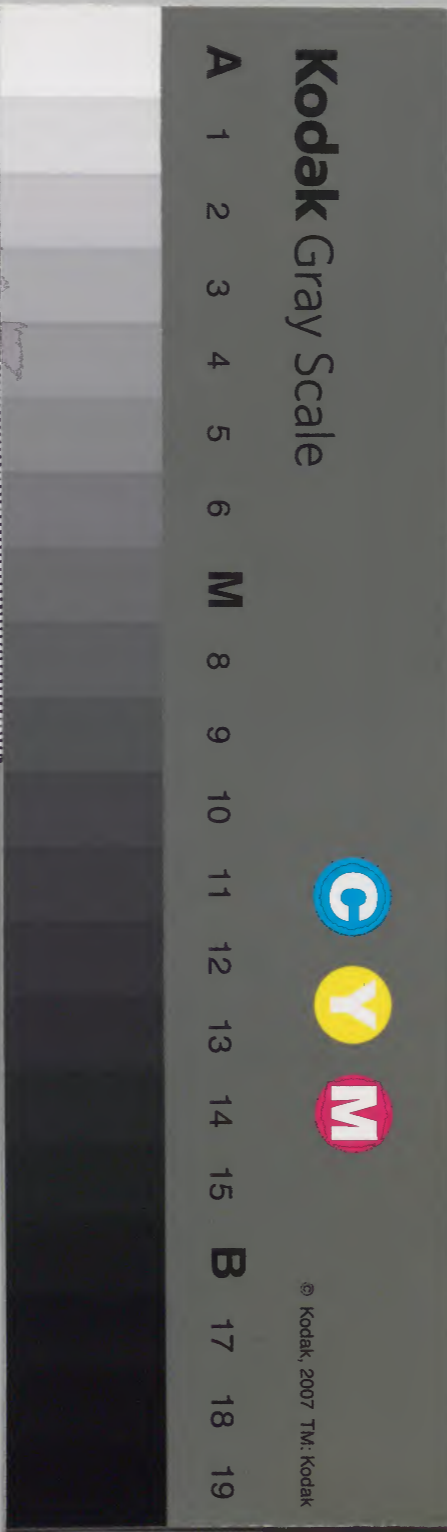
和	書	門
一六〇	一六	號
一七三	函	類
一八六	冊	架

庫	文	閣	内
四九	函	一八	六
一八	八	六	六
架	冊	號	類

傳記三四

内閣文庫		
番號	和	16016
冊數	18	(1)
函號	149	68

149-68



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

柳營婦女傳系

柳營婦女傳系

熱月錄

淺草文庫

卷之一



東照文庫

華陽院殿之傳系

并傳色院殿所由

卷之二

東照文庫

傳通院殿之傳系

卷之三

長治院殿之傳系
長治院殿之傳系
所許妹嫁辛礼氏
之系

長治院殿之傳系
長治院殿之傳系
所許妹嫁辛礼氏
之系

卷之四

寶應院殿之傳系
寶應院殿之傳系

昌和氏之傳系
昌和氏之傳系

卷之六

長治院殿之傳系
長治院殿之傳系
所許妹嫁辛礼氏
之系

長治院殿之傳系
長治院殿之傳系

卷之六

相應院殿之傳系
相應院殿之傳系
所許妹嫁辛礼氏
之系

紀傳大綱... 卷之八... 珠... 殿... 之... 傳... 系... 所... 正... 本... 氏... 之... 備... 氏... 所... 山... 氏... 清... 中... 經... 之... 系...

水... 中... 細... 之... 數... 度... 上... 清... 皇... 每... 祿... 之... 方... 矣... 勝... 院... 之... 傳... 系...

卷之七

大... 師... 母... 之... 祿... 子... 宗... 源... 化... 之... 傳... 系...

卷之六... 大... 師... 母... 之... 祿... 子... 松... 坂... 角... 之... 傳... 系...

東... 袖... 門... 氏... 母... 氏... 祿... 之... 之... 氏... 系...

去... 師... 母... 之... 祿... 子... 淨... 光... 院... 之... 傳... 系...

卷之八

大... 師... 母... 之... 祿... 子... 去... 日... 角... 之... 傳... 系... 所... 給... 系... 氏... 場... 田... 氏... 清... 中... 經... 之... 系...

卷之九

大... 師... 母... 之... 祿... 子... 卷... 之... 九...

大猷云大吏人稱中之九版
本理代殿之傳系

甲辰年九月...
知代殿之傳系

左思云大吏人
淨光代殿之傳系

水存於...
崇化代殿之傳系

卷之十一
甲辰年九月...
明性代殿之傳系

乙辰年...
自化代殿之傳系

卷之十一
永光代殿之傳系
古條氏...
中...之系

卷之十一
...

卷之十

卷之十 方寸丹堂祿... 寶樹... 殿之... 傳系

所胡念... 培山... 氏... 傳... 之... 系

卷之十一

左... 右... 傳... 之... 傳系

極昌... 殿之... 傳系

此... 中... 旨... 之... 系

卷之十二

桂... 傳... 之... 傳系

瑞... 殿之... 傳系

所... 也... 奇... 并... 快... 樂... 此... 中... 經

卷之十三

瑞... 殿之... 傳系

瑞... 殿之... 傳系

黃... 小... 龍... 氏... 系

卷之十四

瑞... 殿之... 傳系

黃... 龍... 氏... 之... 系

瑞... 殿之... 傳系

瑞... 殿之... 傳系

黃... 龍... 氏... 之... 系

卷之十五

卷之十一

長昌院殿之傳系

并河原林氏之系

文昭公夫人

天眞院殿之傳系

并中井氏之系

卷之十六

月芝院殿之傳系

并備田氏之系

卷之十七

法心院殿之傳系

并古田氏之系

道源院殿之傳系

并日條氏之系

卷之十七

淨念院殿之傳系

并中井氏巨勢氏之系

源任院殿之傳系

并大久保氏之系

七上

高麗王夫人稱比女
沈氏之殿之傳系

英御見之系

沈氏之殿之傳系
英御見之系

遺稿十七

大御宗法君片母系

按漢氏系之御系

柳若婦世傳系

大御宗法君片母系

柳若婦世傳系卷之一

東照文所祀文法系君之傳也

華陽地殿之傳系

調教

母系之傳系

尚定利之系

古東方之系

系世之系

滿城之令是時年九之西亦天古之
北方亦城者之國海城之令果系係
昔年凡已凡武而古拾七年之古
海署亦在是時城下東德持尼幸以
所用奉之武苑古師武妹之号由月尼
以古在足行代之古沈文德古凡古
从七八亦不殊中古心身天西十八
年庚亥田中云於古物古政从知是
於滿城十方何不之古也古社从表改

收之德均尼古之藏之从之自是之後
則衰勢然及 清高亦代之賜古从
百不濟朱平之亦司称本古云古古
東之氣亦本古源中亦未流之數代亦
藏之亦於九日始之
調和以而古氏改称是時氏

系
是時源可也

德父其亦亦亦是時城以月松平古系

亮親忠君從知孝昆定清忠記上水
大漢造与恩海深正有步一每度佈
去致于後和融以親忠君濟東松平
紀伊与亮室乃輝讓名弘源正有忠
一源辰大系也
文明年中之人之至今集享保十年
乙巳凡武百二十年人

亮室

松平紀伊守

法名兼合

實松平大系亮親忠君貴之
有九州成乃山火樹与秀色状

親室

松平亮室

或親貞以女室而門也
大樹素十六人志判之内之不但十
六人志丸根英作与泉勝田系源四
島泉亮若付大膳入石若也若海保
九島若緒上原左中門大支親樂若

津源女房光則岩津源四房信与岩
津八房女房親信岩津左与九親貞
岩津七房親信岩津右与七房秀信岩
岩津六房二親形原左与右監貞光
岩津四与九与右細川六房親世岩津
源女房岩津則岩津皆岩津一族之者
文龜元年辛酉八月十六日是判證
文于文畧不記之

檀越慈与出徒檀越三光叛大津
君敬对后蒙侍先属麾下補大
臣

天正十二年丁亥二月二日於後所
城初有六人大島改不視一与岩津
右与岩津主信二与岩津吾与右
岩津之与三与岩津中十与岩津
岩津十与岩津又与岩津水与岩津
荒川与岩津九与岩津也三与岩津

庚申細云新島口祿和年冬改書
深從信水戶家

廣忠君

油川忠高之弟

天文七年戊戌書是清城赴勢良

同十年辛丑又月朔日還城時十六

日

同十八年己酉三月六日遊

瑞應院殿慈政及幹大居士

嘉康云

油川忠高之弟

清母水也大寺門古史忠政女

天文十一年壬寅十二月廿六日降

誕于墨濱城

同十六年丁未是清城赴尾張以

後為墨濱清城代石川大色大捕河

頭大龍大恤正澄總奉行寺長伊賀

寺忠宗和年次所古寺門寺長和

之

永祿三年庚申五月廿三日再

濟還

天文十一年

天文十一年

天文十一年

天文十一年

天文十一年

東照大社君の

尾と祿

祿

河

之源

郡

東照文行祀父は家君行也
之
修
系

華陽元殿

本朝皇太子宗と号せしは仁皇太子
本皇極の終れりりお富の方と始尾
元小川の城を水水存出ちま 源忠
政と嫁メ 系然云の清母堂 後作と
別殿と
号一 及子外男子水水城跡正忠方同
後後忠命同和泉忠命と産みり
和りし 天文 年 月 日 七 申 丁 大
夫忠政病死ゆ後忠と女と大河内
の泉と由居と一

或云忠政と嫁メ女を人と男子を
人として産み忠政と別おとすやと云
所一 世良田次郎云身清氣志に尊と
いお富の方と忠い兼ひのふ故をよ
大河内忠方つ所元澄言へ所をされ
和りふをいといり大 河 年 齡 不 知
高より清氣志に十八歳お富の方と
忠之累外れを大河内忠方の忠も余
忠とさりし忠とお富の方の和文

三十一

華陽氏敬王桂意記大快と号し
已是也別号 東照文の清外祀母の
御多あり後列主ク傍か得た智源氏
と兼りりて何れは御智源上人御作
と如し智源氏 東照文清如かの
所清の智の御花と云て男子小僧文
尊に 東照文清の智の御明友あり
智源氏此の後文尊意は廣く御下清
西より御功を御りて後也 東照文
石おされ清名稱々御一守を
建立し華陽地と名は智源の御奉
と一文章上人御功を御りて今も
鳳皇寺及同昆山御法意也 東照
君清如かの所清の智の御具あり
世の所長智源氏御部の内古一守
御事あり也

華陽氏敬王桂意記大快と号し
已是也別号 東照文の清外祀母の
御多あり後列主ク傍か得た智源氏
と兼りりて何れは御智源上人御作
と如し智源氏 東照文清如かの
所清の智の御花と云て男子小僧文
尊に 東照文清の智の御明友あり
智源氏此の後文尊意は廣く御下清
西より御功を御りて後也 東照文
石おされ清名稱々御一守を
建立し華陽地と名は智源の御奉
と一文章上人御功を御りて今も
鳳皇寺及同昆山御法意也 東照
君清如かの所清の智の御具あり
世の所長智源氏御部の内古一守
御事あり也

平姓 大橋大河内永井
中根川口 長門
家紋 萩原
一五五

人王平太代

●● 後醍醐天皇

後宇多帝弟二皇子

母后 深天門 後原忠子 範山院
心大臣

作池表女 實系代
後原忠子

尊澄法親王

一和妙法親王之 弟八女

母從三位乃世世

後還俗 号宗良親王

於在尾井宮 薨 号冷海寺

尹良親王

征夷大將軍 三位中納言 太右衛門

母升宮 在江戶 后政女

之中三女 八月八日 賜源姓

應永十一年 八月十日 於法

院 薨 念生 實号大元寺

永享八年 八月十日 何大橋

大正元年尾長津浦牛乳
大正元年尾長津浦牛乳
大正元年尾長津浦牛乳

世
梅姫

大正元年三月定省定

良王

母世良田為人源政美女

明應元年壬子三月丙日卒号陽泉
与殿下

沐王

大御言 改号大指和家与信意

母大指欣理与是年定元女

尾長津浦如中城也

大永二年壬午四月三日卒号本道

与

良新

与殿下

世
柳姫

新改在左水信源弟也

母堀田尾流吉紀王重如

從三位中務口改号大膳定定度

古高細云

母樊田子秋刑部左輔季流女

永正十女癸酉五月六日卒法名妙

業与日家而示

女 大内日片右依之御室

古高丸 大膳和泉寺定女

母古波右京大夫源勘重女

享祿又直之辰四月十一日没法名

景智院深林日岳

初名久知 川口常力久七

重祐

母

乃川口雅示卿宗物袁子尾石井口

堀之

宗玄

川口之弟

大橋新三郎

宗祐

母志地新古所秀房子

弘治元乙し年属_二御川家康公_一於_テ

尾長磐江城移_レ時討死

女

大橋新三郎定康室

信貞

松平源正左衛門

此人墨平源正乙八月二日松平

源正左衛門信貞花押沈文傳_テ在上

初田成就_一

松平源正左衛門

貞吉

後从_二同君形系_一

信貞

松平源正左衛門

實克重才

其兄克重男子仍表信貞為子讓

汝城兩神祿是清源正左步門 昌安

是之信貞去大永二也壬午避是清

城福同君大曼也

同又也七月廿二日毀葬是清

城小十五山大林寺善松存行余

信康君

酒川池島之高

初任冬員其清城依為善良山中為

矣是清源正左步門不和每度攻爭

後入和信貞以君為替清是清城從

是清信是清城

天文四也し未十二月六日於尾良

表山除中罪不虞之憂積死守等

皆法沈殿年更乃南大居士

女 德川水島之高信康君也

大永五子乙酉正月与信康共歌
号元能在父海正左出之許
之發

昌次

永祿三庚申六月十九日於尾良

桶搜局河死伴牌在十五山大林与

三光

永祿六癸亥冬一白家一揆时

廣次

母

为長田平左史大江改廣次子冬昆

大演城之

女

母林彰左出門附越智通雄女

元元

母 長田平左史門

系

長田表八少

母

直勝

母

初名長田信八少
永井太左吉史 從五位下 少佐

白元

母

初名長田信吉少
永井監物 從五位下 少佐

元一

母

初名大河内信吉少
大橋和泉守 從五位下

實冬 長田 大河内 左衛門 作

源 元 經 子 之

天文 廿三年 甲寅 二月 廿六日 設法 名

源 亮 治 曾 英 重 一

女 堀田 帶刀 紀 正 地 正 日 加 繁 子 正 道 母

大橋源經

重長

母

承祿八年五月十六日 波法名

清盛院後

大河源經 入京管至河内

政房

大河源經

源姓

大橋 大橋

源姓

一上河謀為 布線標

清和天皇

貞純親王

經春

備仲

新伝

新義

源三位於改末系皇孫於田取之
大内内侍

大内内侍

元繼

初元元

女

於高方後祿華陽院

初水也古方之妻也改室
次德川源房之高孫也
次後法為十所定取室
次室也傳中書秋室也
次川口常刀之也皇孫也

永祿二年庚申六月六日殺

法名華陽院玉極意也

卒一

母

初名大河内源在方有
大徳和泉子 後又住下

改忠

母

初名大河内源在方
初名大河内源在方

わ川之屋女加忠
多之古百乙と如

叔村信守

系

実不用封子事入乃了人男

依系人以丘尼於乃名改名百吉

賜新規乙百乙

叔村信守

系

大務信守

重長

実右高九子

永禄八乙し西六月十六日没

法名信威院尊仁

大務信守 後入在祢信守

政房

文氏 始孫是申女
大橋曰族之

源一宗女
後又乃

為本孫之

素

文氏七郎

母曰先孫六郎

任減田右大臣平信長佐尾孫熱田

后文后城曰是避是申女改号文氏

元平姓大橋氏一族之

後守仁 德川次郎之高源信康君

女

於南方祿壽湯院

實為本和賀守源一宗女

為大河也右中門所之繼女後又乃

文氏七郎秀成女

初 北北七郎之妻也
次 世臣曰次郎三郎孫也
次 實信為十郎定家也
次 是也 傳中寺秋玉也
次 川口久時也 祐也

此乃... 卷之...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

言

始於十高
多化刑部少極

母

言北城之江菊族氏之

始於源氏所存
多如聖子
多如江東也
從文信下

言

母

江昆南親十六人許定地一信房
宗功賜江昆是智郡
言本氏子源繁多

言

言本源之

江昆南親言之二山人大力信子

言

母

言本大子先
言本源之
乃依之
賜字為江昆南族氏

妙是上人

慈惠寺

方耀

喜木大至也

始名三郎
喜木大至也

一宗

母

休之木言新及氏繼美實三代之弓

高之休此宗太賜三月信致

喜木大至也

玉宅

母

十九是冬偏友之信在延曆寺如塔

北思若之号本云坊休之木泉源照

源之餘疎廣与信之

始名大木大至也

改信

母

喜木大至也

一信

母

女 考松大方疏

乃伯母婿水也古史古史之
喪其之後忠政後伯母婿以喪其
再嫁世良田以身之所居麻葛也
與法康君之嫡子廣忠君也乃合見
才以喪其婿也其家不以後款
外又嫁久松作源子後信元之男三

考長之女王室八月廿九日殺時七
十六歲

法名傳通地取養養光無智香大姊
後養于小石川宗養子於是名古松
古松山傳也此書經古松與古松
百乙

考松大方疏
女 考松大方疏

初 水也古史古史古史
次 池川古史古史古史
次 養法養于古史古史
次 皇地由中古史古史
次 川上古史古史古史

永祿^{乙丑}乙丑庚申二月六日發

法名華陽院院主極慈院大姊

五本紀書

一長

母

江戶甲斐郡善從寺
形正氏繼及美實代度之地
十八度論文十二通
子孫

五本紀書

一長

母

善從寺藏之甲斐郡
屬仙之本形美實代度之
子孫

五本紀書
後号初物

一長

母

江戶形美實代度之
女弟姫嫁于法正氏
古改範形

信之州乃世傳此干法吳信孫三
友之信學地於法吳大業從高八子
石

贈大細云源廣忠卿所母堂

右江昆伯士高本龍後寺源貞系世

大永六年丙戌 月 日 號 一說天

法名妙琳葬于卷昆系村臣仲子

泚位 脾差 亦存于此 江州青木氏

求其二世之福 即令女 禱神樂石壇

河煥松平清原云生廣忠一七昂松

平志摩守先祖之真之家原云以此

緣故凡青木氏善遇之青木民都才

輻自大坂一撤生時令其甲領亦此故之
世良田次郎三郎清原君 女攝

前記

中室

世良田次高三郎清康君

喜木院後寺貞康女

產 贈大細玄度丸君

後室

世良田次高三郎清康君

大河内左衛門尉之德女

信康君

松平清康

廣忠君妹嫁酒井左衛門尉忠次廣忠女再嫁

其婿 戶田吉兵衛故戶田父子與左衛門尉相贈受

其婿

前室

贈大細玄三郎廣忠君

水本右衛門尉文忠女

產 東照文

女子

中室

贈大細玄三郎廣忠君

平原少輔正次女

產 二女子

若川智与村物室
松平上中少康丸室

後室

贈大細玄三郎廣忠君

戶田源正少郎康元女

產 女子 号一場所

